2026年
6月

草の根

BULLETIN OF THE AICHI COUNCIL AGAINST A&H BOMBS

発行 原水爆禁止愛知県協議会
発行人 佐竹康行
〒461-0004
名古屋市東区葵1-22-26
Tel(052)932-3219
Fax(052)931-2651
gensuikyo@lime.ocn.ne.jp
毎月1回 6日発行
月40円/年間480円

核兵器廃絶をめざして あいち平和行進スタート！

２０２６年の「あいち平和行進」は、例年より１日早い５月30日に静岡県より引き継いでスタートしました。

午後１時に豊橋市の二川駅に集まった静岡県の行進団とともに岩屋緑地公園まで歩き、その後、静岡県からの引き継ぎ集会を行いました。

はじめに、静岡県の代表から１２００名の参加と折り鶴30万羽が寄せられたと、静岡の平和行進の報告がありました。

あいち平和行進の代表である金本弘愛友会理事長があいさつし、ＮＹでのＮＰＴ再検討会議に参加し、世界で核兵器なくせの行動が広がっていることを感じたと話し、平和行進を始めた西本あつしさんについて話しながら、「一人の力でも歩き始めれば世の中を変えていくことができる」「平和行進で日本と世界を変えていきましょう」と呼びかけました。

コープあいち理事長の森政広さんは、世界で戦争を仕掛けている国はアメリカやロシアなどの核保有国で、多くの国は戦争を無くそう、核兵器を無くそうとしていると語り「この流れと一緒になって平和行進を成功させましょう」と話しました。

東京から広島までの全国通し行進者の三浦コト子さんと尾崎庸美さん、わかやま市民生協のリレー行進者、愛知県通し行進者の紹介の後、「原爆の火」を先頭に歌声を響かせながら岩屋緑地公園を出発し、あいち平和行進がスタートしました。

１日目の終着点である桜丘高校では、生徒、教職員から大きな歓迎を受けました。歓迎集会では、教職員から「世界で落胆する状況が続いている中で、平和行進は希望」とあいさつがありました。

生徒からは、昨年の戦後80年に取り組んだ平和活動の報告があり、「平和を通じて日常の大切さを伝えていきたい」と話してくれました。

全国通し行進者の尾崎さんが、あいさつし、被爆者である父、母からは、亡くなる前に戦争はいかん、憲法は守られないといけないと言われたことに触れ、大きな責任を感じたと話しました。

太鼓部「桜花太鼓」のみなさんの演奏もあり、元気と希望をもらえる歓迎集会でした。

この日は、参加者のべ６８０名、寄せられた折り鶴は１万５千羽でした。

また、田原市では同日午前中に署名・宣伝行動に取り組みました。参加者が２組に分かれ、田原駅前での宣伝と前日にポストインした署名を集めました。各戸訪問すると署名を書いて待っていてくれる人が何人もいて「戦争はいけない。核兵器は無くならないといけない」などの会話がありました。禁止条約参加を求める署名が15筆、９条署名が19筆集まりました。

その後、豊橋市の引き継ぎ集会に参加しました。

日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名

県内171，044筆

2026年5月10日　現在

NPT再検討会議・愛知県代表団参加者の感想 part 1

◆金本　弘（日本被団協理事・愛友会理事長）

1、ＮＰＴ会議の1週間、病気もなく、行事を務める事ができた。

2、愛知をはじめ、多くの人と交流ができた。人的交流の財産を得た。

3、ＮＰＴ会議に期待したいとこと。被爆者がやるべき運動に確信が持てた。

①会議で、核を持つすべての人類と共存できない負の特徴が明らかになった。

②戦争している国の発言は子供の口喧嘩のようで聞くことも恥ずかしい。しかし、口喧嘩では問題が解決できないことを感じとってほしい。

③戦争していない多くの国が、これからどう説明していくのか、各国で考えたのではないか。

④日本被団協・被爆者としての具体的目標～署名活動、国への意見書活動（過半数突破）の重要性を改めて確信した。11月のＴＰＮＷ締約国会議と国への要請行動。

⑤今回のＮＰＴ会議で合意文書が出せるように大きな期待を持っている。１ミリでも前進させる事が重要。再び、ＮＰＴの原則を再確認する内容を最低限入れること。

⑥４日間のボストンでの活動からも力を得て、今後の活動のエネルギーにします。みなさんに大変、気を使っていただき感謝しています。

◆羽田　蒼馬（あいち学生平和会議）

全体的にハードスケジュールでしたが、盛りだくさんで充実した滞在でした。

General Debateは緊張感が漂っていましたが、今の世界情勢をクリアに見ることができました。日本政府の発言は、いずれも内容的に薄いものでとても残念でした。一方で、グローバルサウス諸国を中心にＴＰＮＷへの参加や非核兵器地帯の新設を求める意見も聞かれ、核保有国に対して軍縮を進めるよう圧力をかける国際社会の力を感じました。

中満泉さんとの面会という貴重な経験もできました。国際秩序を回復するためには若者の参画が重要であり、会議の成功

（裏面へ続く）

が若い世代からの国際法への信頼を取り戻すカギになる、という話が非常に印象に残っています。

◆板木　悠加（看護師）

今回の参加に関して一言で言うと、参加できて良かったということにつきます。ＮＰＴについて調べはしたものの、実際全く内容が追いついていませんでした。ですが、会議を傍聴し、その時々の感想を聴くうちに、核抑止とは何と都合のいいことなのかを知ることができました。それまでは３本の柱として挙げられている内容は、良いことだと思っていました。ですが、全く逆のことを言っていることに言葉がありませんでした。その後のサイドイベントや、被爆者さんたちの声を直接聞くことで、自分がいかに無知なのか実感しました。せっかくいただいた機会を無駄にしないよう、日本に帰ってからの平和運動について情報の共有と活動を積極的に行っていきたいと思います。

◆越須賀　舞（福祉保育労）

ひとつひとつのプログラムでの学びがとても多く、たくさんの刺激を受けている毎日です。国連での各国の主張を聴き、アメリカでの熱い平和活動や労組運動の思いを聴き、そしてなによりも被爆者のみなさんの声を聴き、一緒に参加する愛知のみなさんやほかの地域・団体の皆さんと対話をする中で、『核は絶対にダメなのだ』ということへの確信が自分の中で強まっています。一方で、自分の無知さも改めて実感しています。もっといろんなことを知りたいし、知ったことや感じた思いをまわりに広げながら手を繋ぎ合っていきたいと思います。送り出してくれた福保労の仲間たちに感謝です！

◆西川　桂倭（福祉保育労）

私がこのＮＰＴに来て１番の思い出は、今井セイ子さんとお話ができたことです。８月９日の原爆投下の４時間前に生まれ、今までお元気でＮＹまで来られていて、でも話している時に「誕生日がイヤだった」と教えてくれました。私はその言葉になんて答えたらいいのか分かりませんでした。生まれて４時間の何も悪いこともしていない、そこにいるだけで幸せをくれる存在の赤ちゃんだったのに、ずっと誕生日を喜ぶことに罪悪感を感じなければならないなんて、今考えただけでも胸が痛いです…。

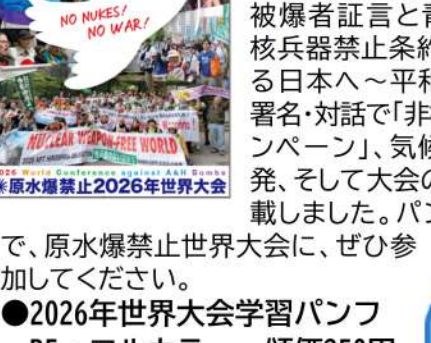
でも私の平和を守りたい原点はここだと強く思いました。これからを生きるたくさん子どもたちがずっと笑顔でいられますように！

この出会い以外にも多くの新しい出会いを与えてくれたことに感謝でいっぱいです。

◆大川　彩子（福祉保育労執行委員長）

初めてＮＰＴ再検討会議に参加しました。

初日からイランが副議長をやることに対して反対の意見が出て最初からドキドキしてしまいました。でも、逆の立場になればここまでハッキリと意見が言える環境はすごいと感じました。日本にいたら感じられない体験でした。２日目はエスペランサ高校の訪問に一緒に行かせていただき、日本との教育の違いを感じました。机の配置がまず違うし、授業の方法も違うので、すごく生徒たちがのびのびとしていいなと感じました。



被爆者の話も真剣に聞いてくれ、率直な質問もたくさん出て交流ができたのはとてもいい経験でした。

女性交流会でピースアクションのメンバーの話を聞いて、若者たちにどう伝えていくか、実際に大学で支部をつくって活動している内容を教えていただき、とても参考になりました。組織でガチっと固めるのではなく、緩やかに自分たちがやりたいことを出し合いながら何ができるか話し合うことが大切だと感じました。世界中で私たちと同じ思いで活動している人たちの話が聞けて勇気をもらいました。刺激いっぱいでした。

◆東　雅明（北医療生協理事）

初めての海外旅行。しかもＮＰＴ再検討会議。緊張の毎日。初日のパレードに感激し、反響も大きくて力強かった。国連の会議の傍聴では、国の名前を聞いてもピンとこない、頭の中で地図が浮かばない国が沢山あり、そんな国が核保有国を批判し、６条の履行を求める。禁止条約に参加することを求める発言に勇気を貰う。いつも名前を聞くような国々の、欺瞞的で、利己的な発言に怒りを覚える。日本の発言はとても恥ずかしく、なさけない。世界で名誉ある国へと変身させるために、力を尽くしたい。

元気に生きて平和に貢献
第61回愛友会定期総会

5月23日、愛知県原水爆被災者の会（愛友会）が第61回定期総会を名古屋市総合福祉会館で開催しました。

はじめに亡くなった被爆者に黙とうを捧げました。金本弘理事長のあいさつでは、ＮＰＴ再検討会議に参加した様子が語られ、アメリカ代表がイラン代表の副議長の選出に猛抗議したことについて「国連にいるような人たちでも、ケンカのような会議をするのか」と驚いたことや、学校などで講演をした時に核兵器禁止条約を知っている人が少ないと感じたこと、ジョゼフ・ガーソンさんの招きでボストンを訪れたことなどを話しました。

来賓あいさつでは、愛労連を代表して愛高教の寺田英明さんが、「一部の高校で修学旅行の事前学習として被爆者の話を聞く。色々な高校で被爆体験を話してもらえるようにしたい」と語りました。

昨年度の活動について、２０２４年のノーベル平和賞受賞から今年３月までの間に１６０カ所で講演を行い、１万８千人以上が証言を聞いたこと、全国的に組織の維持継承に苦慮する中で瀬戸市に続き、津島支部、あま支部の再建、結成ができたことなどが報告されました。

今年度の方針については、日本政府が禁止条約に背を向ける中でも、被団協結成70周年の今年、より多くの国民と広く深くつながり、目標達成のためにがんばりましょうと訴えました。

総会の後、参加者全員が一言ずつ話し、交流を行いました。被爆者の方は自身の被爆体験を、２世は親の体験を語り、支援者は被爆者や愛友会との出会いなどを話しながら、反核平和への思いを交流しました。

最後に金本理事長が「これまでは被爆者に対して１日でも長生きしてがんばりましょうと言ってきたが、これからは２世も支援者も１日でも元気に生きて平和に貢献してほしい」と結び、総会は終了しました。

原水爆禁止2026年世界大会 パンフレット&ピンバッジ

ことしの大会の意義をはじめ、核兵器のない世界へ国際共同のひろがり、被爆国の運動の重要性、被爆者証言と青年の声、核兵器禁止条約に参加する日本へ～平和行進から署名･対話で「非核日本キャンペーン」、気候危機と原発、そして大会の魅力を掲載しました。パンフで学んで、原水爆禁止世界大会に、ぜひ参加してください。

●2026年世界大会学習パンフ
　B5・フルカラー　頒価250円
●記念ピンバッジ　頒価300円
※購入申込は県原水協事務局まで